

## 令和4年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	③	学校名	奈良養護学校
----	---	-----	--------

### 1. 事業内容について

取組・活動・事業名等	「社会参加学習」の地域作り実習を通して学ぶ
教育課程上の位置付け・目標又は活動のねらい	「総合的な探求の時間」及び「自立活動」に位置付け、一人一人がよりよく生きていけるために、豊かな社会性を育み、自らの特性を生かした生活を設計するための力を養う。
連携・協働相手	ヘルマンハーブの会、弦楽アンサンブル
地域と共有している目標・課題等	地域社会でともに生きるという観点にたち、交流の機会を持つ。本校の生徒については、コミュニケーションの力、集団活動に主体的に参加する力を養うことを目標や課題とする。
取組・活動の内容（生徒の主体性、具体的活動、連携・協働内容など）	
<p>11月1日（火）に弦楽アンサンブルを11月10日（木）にヘルマンハーブの会（音楽演奏団体）をそれぞれ奈良養護学校へ招き、演奏会及び交流活動を行った。新型コロナウイルス感染予防として体育館でソーシャルディスタンスをとりながら実施した。いずれの演奏会も生徒たちのなじみのある曲を中心に演奏をしていただいた。</p> <p>事前の取組として、本校の生徒たちの実態や学校の様子や生徒たちのなじみのある曲を演奏者の方に伝えることにより、本校の啓発をはかることができ、当日の効果的な連携にもつながった。また演奏会当日は、生徒たちもヘルマンハーブに触れたり、音を出したりすることで、演奏者を身近に感じることができた。</p>	

### 2. 事業の成果と課題

<p>弦楽アンサンブルやヘルマンハーブの会に、本校の「音楽」で取り組んでいる歌など、生徒になじみのある歌を曲目に入れていただいたので、生徒たちは、興味をもち演奏を鑑賞することができた。楽器に触れたり音を出したりすることができたことを喜ぶ生徒たちも多かった。来年度以降も、関係を大切にしながら、演奏会を実施したいと考えている。今年度も感染症対策として、演奏者の人数を絞って実施した。来年度以降は感染症流行の状況を見極めながら、個々の生徒たちが演奏者の方との交流の機会がさらにもてるように、演奏者の人数を元の通りに増やしていただくことを依頼するなどの検討をしていきたい。</p>
---

